2022(令和4)年度学校評価表

学校法人金城学園 遊学館高等学校

建学の精神	何ものにもとらわれず、自由に広く世の中を見聞し、人格を高め磨いていくこと (遊学の精神の涵養)。 周りの人々がより良く幸せに生きるための支えとなる人材を育成すること (良妻賢母の育成)。
教育理念	教育とは先生と学生の全人格のぶつかり合いの中から生まれてくる学生への影響、それも何らかのよい影響である。
教育目標	文武に励み、自らの品格を高めるとともに他者の人格を重んずる心を養い、遊学の精神を持って未来を切り拓く人間の育成をめざす。

【アンケート調査】

	名 称	実施予定	対象	主担当部署				
1	学校行事アンケート(体育祭)	6月	全校生徒	保健体育科				
2 保護者アンケート 2 保護者アンケート		2,3年生保護者	· 教務部(IR)					
2		3月	1年生保護者	- 教が行い (IR)				
3	学校行事アンケート (学園祭)	9月	全校生徒	生徒会				
				① 生徒指導部(品格、挨拶、愛校心、正義感(マナー)				
4	学校生活アンケート	10 月	全校生徒	② 遊学講座運営委員会(遊学講座)				
				③ 教務部 (総合的な探究の時間)				
5	委員会アンケート	10月,2月	各委員会	生徒会				
6	授業アンケート	12 月	全校生徒	教務部(IR)				
7	卒業生アンケート	2月	3年生	教務部(IR)				
8	修学旅行アンケート	3月	2 年生	1,2 年学年会				

重	重点目標 1. 心身ともに健康な生徒の育成						
	重点目標に対する具体的取組	担当部署	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析 (成果と課題)	
1	自らの品格を高めるとともに、他者の人格を重んずる心を養う ○SNS によるトラブル及びいじめの未然防止 ○スクールカウンセラーを配置し教育相談体制を充実	生徒指導部	アンケート実施により、SNSトラブルを未然に防げた。集計が不十分だった学年もあるため、学年会やクラス担任にも協力してもらい集計を徹底する。カウンセリングは来年度も継続して実施する。	ルーブリック 12 点満点評価 (1) 年度当初のアンケートの 実施と面談 (2) SNS トラブル発生相談件 数及び解決数 (3) カウンセリング受診者数 と解決数(振り返り) S 12 点 A 10 点以上 B 7 点以上 C 4 点以上 D 4 点未満	A	ルーブリック評価(A:10点) (1)アンケート+面談という形で年間 通して実施した。 (2) SNSトラブルで大きな問題となる ものはなかった。 (3)生徒、保護者を対象にカウンセリ ングを行った。※受診は状況に応じて対 応。 総評:アンケート実施により、SNSトラ ブルは未然に防げ、集計もできた。継続 してカウンセラーとの連携も行う。	
2	明るく元気に進んで挨拶ができる	生徒指導部	学校アンケートの結果は、ほとんどの項目が70%を越えたあたりになっている。内容としては、校則順守、基本的な生活習慣の確立、挨拶、人間関係。丁寧に生徒の成長がみられる指導をこれからも継続していく。	学校生活アンケートの結果 S 肯定評価 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%未満	A	学校アンケート関連項目において、肯定評価が90%に近い結果となった。 校則違反の指導やや交通マナーに対する苦情が多いが、ルールやマナーを守ろうとする生徒の気持ちを尊重しながら学校全体で指導する必要がある。	
3	正しい頭髪・服装で登校 ○校門指導(毎日実施) ○服装指導期間(定期的) ○服装指導(日常的) ○頭髪指導(月一回)	生徒指導部	前年度に休校などが多く、今年 度との比較は難しいが、指導書が 多い=指導不足ではなく、生徒指 導部長、クラス担任、該当生徒と 保護者での面談も多く行われ、生 徒指導部、クラス担任、保護者の 連携が取れた場面が多くみられ たので、継続して取り組んでいき たい。	S 90%以下 A 95%以下	D	指導書の発行は、多い傾向にあったが 指導書が多い=指導不足ではなく、生徒 指導部長、クラス担任、該当生徒と保護者 での面談も多く行われ、学年主任や教科 担任も含めて連携することができた。今 後はさらに協力体制を強化することで生 徒と共通理解を深めて指導を進めていき たい。	
(4)(5)	不注意による遅刻をなくす ○遅刻業後指導の徹底 正義感を持って公共のルール・マナーを守る ○自転車マナーの向上 ○バス及び電車利用時のマナーの 向上	生徒指導部生徒指導部	遅刻は特定の生徒が繰り返しており、大半の生徒は無遅刻で過ごしている。該当生徒に対して早出登校だけでなく、普段からの生活習慣の改善や、家庭の協力が今後も必要である。 (1)外部から苦情、お礼の連絡を多く頂いた。(2)金沢駅バス指導の成果により、劇的に苦情件数は減少した。しかし、継続的な指導が必要。(3)交通安全講話は、年度初めに自動車学校	遅刻者集計表で10%未満の月数 S 7ヶ月以上 A 6ヶ月以上 B 5ヶ月以上 C 4ヶ月以上 D 3ヶ月未満 ルーブリック12点満点評価 (1)外部からの苦情及びお礼 の言葉の件数 (2)金沢駅での乗車指導 (3)交通安全講話の実施 (4)問題行動の件数	D	遅刻者集計表で10%未満の月数は2か月であった。遅刻は、特定の生徒が繰り返しており、大半の生徒は無遅刻で過ごしている。該当生徒には、クラス担任の個別面談と、家庭にも理解と協力を求めるなど連携して改善につなげる。 ルーブリック評価(B:7点)(1)外部からの苦情もあったがお礼の言葉も頂いた。 (2)金沢駅バス指導の成果により、苦情件数は減少した。今後は、関係交通機関や他校との連携も必要。	
			の方に来ていただき実施した。 (4) 問題行動に至ったものもあった。SNS トラブルなど、クラス担任を中心に生徒に対して積極的に関わることで問題を未然に防ぐ指導が必要。	S 12 点 A 10 点以上 B 7 点以上 C 4 点以上 D 4 点未満	В	(3) 交通安全講話は、年度初めの校内 研修において実施した。 (4) クラス担任を中心に未然に防ぐこ とが必要。今年度は、やや怠学が多い傾 向にあった。	

重	重点目標 2. 確かな基礎学力を身につける							
	重点目標に対する具体的取組	主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析 (成果と課題)		
	教員の指導力及び資質の向上 ○校内研修の充実 ○県外視察や研修を奨励 ○研究授業・互見授業週間の活性 化 ○ICT活用 ○オンライン技術	教務部	評価については、コロナ禍において教員が校内外の研修にほとがをなかったことが主な原因である。その中でも校内研修は5回行うことができ、うち外部講師による校内研修は、オンラインで2回だとができた。また学期ごとは割合は15%程度と少ないことが誤題である。ICT活用については、GoogleWorkspaceへの登録を全教員に行い活用の準備を整えることができた。活用法については校内研修を利用し共有したい。Classiは年間通して連絡手段として活用できた。授業アンケートでは、57.1%の教員が80%以上の肯定的評価を得ている。	ルーブリック評価 評価項目(各4点満点) 1.指導力及び資質の向上 2.校内研修の充実 3.県外視察や研修を奨励 4.研究授業・互見授業週間の 活性化 5.ICT活用 6.オンライン技術 7.授業アンケート 今年度6および7は評価せず 20点満点中 S 18点以上 A 15点以上 B 12点以上 C 9点以上 D 9点未満	C	1. 指導力及び資質の向上 2. 校内研修の充実 3. 県外視察や研修を奨励 今年度もコロナ禍の影響により校外派遣は見送ったが、外部講師を招いて様々な観点による校内研修を実施した。 4. 研究授業・互見授業週間の活性化研究授業については実施を見した。互見授業については年間2回の実施を行ったが、参加者が少なく課題が残った。 5. ICT活用 6. オンライン技術 ICT活用については、年度末に教員用としてChromebookを配布し、来年度より始まる生徒Chromebook活用の事準備にあたったが、設定等の見直しも必要の力がよる部分もあるが、多くの資質にかかわる部分もあるが、多くの教員がICT活用を開始していることを踏まえ、研修や会議のオンライン技術については、教員の教員がICT活用を開始していることを踏まえ、研修や会議のオンライン化を進めるラン技術の評価については、教員と生徒のChromebook利用状況をみながら方向性を決定することとし、今年度の評価は見送ることとした。 7. 授業アンケートは現在集計中である。		
2	学習の基礎基本の徹底 〇好ましい学習習慣を身につける ための指導	教務部	授業態度指導カード発行枚数の 生徒に対する割合は 4.8%と、発 行数自体は少ない。授業態度指 導カードのあり方については、 令和 4 年度 1 年生からの観点別 評価実施にともない見直しを行 う。	授業態度指導カードの発行数と 全生徒数との割合 S 5%未満 A 5%~10% B 10%~25% C 25%~50% D 50%超	A	今年度は昨年度に比べて発行枚数が30 枚ほど増えた。全校生徒に対する割合も 6%以上に伸びているため、積極的にカー ドを発行する教員が増えたと見ることがで きるが、見方を変えれば、指導される生徒 が増えたとも言えるため、発行枚数は現状 を把握するために必要だと考えるが、発行 する必要がなくなるよう授業内の雰囲気づ くりが大切となる。また、発行後の対応が 重要であり、発行を受けた生徒への適切な 対応と発行の意味付けができるよう周知し ていく必要がある。		
3	英語検定受験者の増加と資格取得	教務部検定担当者	合格者:2級10名、準2級27名、3級9名、校内受検率:13.3%、合格率:29.5%3年間の受検状況を見ると、受検率も15%近くなり、少しずつではあるが、検定受検へ年度は2級合格者も10名出ている。また今年度は2級合格者も10名出ているが、大学入武動単位での受検を考えている部活動単位での受検を考えている部活動も多い。大学入びのでは全て英検2級以上を取り上をで支検2級以上を取りして、年間1度でも特進コースをは特進のクラス担任と連携とて、年間1度でも特進コースでは目指す。	ルーブリック 12 点満点評価 (1)受検者数 (2)準 2 級以上の合格者数 (3)取得率 S 12 点 A 10 点以上 B 7 点以上 C 4 点以上 D 4 点未満	В	合格者:2級4名 準2級29名 3級5名 校内受検率:12.1% 合格率:27.7% 準2級の受検者数が年々増加しており、全体の受検者で、昨年は60%、今年は62%を占めた。評価項目において合格率の欄が最も評価が低く、総合評価でA評価にならない原因となっている。そのため、この60%を超える準2級の受検者をどれだけ合格させていくかが今後の課題となっていく。次年度はALTと連携し、ライティングの指導を加えることで合格率をあげるように行動を変えていく。また第2回の受検者数が他の回に比べ半分以下となっているため、この回でも同数の受検者を確保できるように、英語科教員と協力して案内をしていく。		
4	模擬試験における目標の明確化 ○模擬試験結果のフィードバック	教務部	スでは目指す。 第2回スタディーサポートの D層の割合は、44.0%である。 今後は教科会と連携し、生徒の できない部分を明らかにし基礎 学力の向上をはかりたい。今年 度はコロナ禍にあり受験者が少 なかったが、外部模試の活用を すすめたい。	D層の生徒数と学年生徒数の割合 1. 1年生 2. 2年生 S 10%以下 A 30%以下 B 45%以下 C 60%以下 D 60%超	D	1. 1年生 第2回スタディーサポートのD層の割合は、国数英1年生65%、特に1年生のD3ゾーンが近年と比べ増加している。スタディーサポートをはじめとする模試への意識が低いと思われる。今後は進路指導部へ業務が移行されるので、意識改善や成績向上を期待したい。 基礎学力の向上は教科との連携が大切との考えから教務部で模擬試験を担当してい		

			たが、現時点では連携不足は否めない。来 年度より進路指導部担当となるが教務部も 連携し取り組みたい。
	第 2 回スタディーサポートの D 層の割合は、58.1%である。	С	 2. 2年生 第2回スタディーサポートのD層の割 合は、2年生53%である。

重	重点目標 2. 確かな基礎学力を身につける							
	重点目標に対する具体的取組	主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析(成果と課題)		
(5)	「総合的な探究の時間」を充実・発展させる	教務部	小論文のテキストを利用し、テーマや設問で意見を問う小論文の書き方を学び、序論・本論・結論の構成にしたがって段落分けができるようになった。また、SDGsで興味を持った項目について調べ、企業や学校、各団体等が目標を達成するために実践していることを学んだ。多くの問題が発生していることを知り、今、自分で何ができるのかを考えるきっかけとなった。	学校生活アンケート (総合探究 の時間) の結果 S 肯定評価 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A	テキスト「ドラえもんはじめての論語」を 使い、孔子の言葉から多くの名分・名句に触れ、書き写したり意味を書き込んだりした。 日常生活の中で大切な事や考える力、生きる力となり(思いやりの気持ち)人生を豊かにする一助となった。また小論文テキストを利用しテーマに沿って、将来の進路に直結する小論文の大切さを学んだ。修学旅行の事後研修では全員がクラス内でテーマ別自主研修の発表が出来た。マイキャリアノートを定期的に活用し、テスト結果の見直しや大会結果の記入、行事の振り返り等を		
			「ENAGEED」を使用し「新しい時代に対応する力」について考える教材を用いて、自身の視野や可能性を広げ、自分が選んだ道を正解にする力を身につむ場に立って考える力や問題解決することによって新たな力が身についた。 志望理由書の書き方を学び、来年度の進路について意識を高め自分自身を見つめ直すことができた。 SDGsについて学習し、16の目標を確認しそれぞれの問題点や課題に気づき知識を深めながら問題解決に必要なことを考える力を身につけた。		S	書き込み有意義なものとした。 「ENAGEED」を使用し「自分はこれからの未来で何をやりたいのか」について考える教材を用いて、「自身の可能性」を広げるための活動を行い、未来に向けてイメージを広げ、これから求められる力について考える(理解する)ことができた。小論文のテキストを利用し、テーマや設問で意見を問う小論文の書き方、言葉の使い方、文章の書き方を学び、自分の意見をまとめて書くことができるようになった。		
			小論文ガイダンスを受講し、課題に対して自分の意見をわかりやすく表現する練習をした。活動を通して、相手に伝わりやすい文章で表現する力をつけた。 職業講話では、日本航空の客室乗務員の方から「おもてなしの心」や「制服の着こなし」について学んだ。講話を通して礼儀正しさや、制服を正しく着こなすことが相手に安心感を与えるということに気づくことができた。マイキャリアノートを利用し、自分自身を見つめ直すきっかけとした。		A	小論文だけでなく志望理由や自己 PR 文などを書く練習も重ね、スムーズな入試書類の作成、小論文テスト、面接へとつなげることができた。 職業講話では、実際の客室乗務員を目の前にし「制服の着こなし」や「おもてなしの心」、「言葉遣い」に対する意識が向上した。 SDGs について学習し、16 の目標を確認しそれぞれの問題点や課題に気づき知識を深めながら問題解決に必要なことを考える力を身につけた。		
6	図書室利用者数の増加	教務部	昨年度と同様コロナ禍の影響 のため活発な活動ができなかっ た。図書室の使用についての 「図書だより」を発行できた。	利用者数 S 年 350 人以上 A 300 人以上 B 200 人以上 C 100 人以上 D 100 人未満	D	一定期間であったが、図書室を開館できた。ただし利用者はほとんどなかった。また本校他施設の改築に伴う図書室利用制限も影響した。来年度に向けて、図書委員が図書室利用や読書の推進に関わる活動に着手したことは有意義であった。		

□ 一型の工作を基準を全有性会談 中央	重	重点目標 3. 広い視野を持ち主体的に学校生活を営む							
公司報告:		重点目標に対する具体的取組	主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析 (成果と課題)		
	1	主権者教育を見据えた生徒会活動	生徒会	委員会での主体的な活動は、本	委員会アンケート		委員会を対象としたアンケートは実施し		
		の活性化		校では難しい一面もあるが、来	S 肯定評価 90%以上		ていないためD評価とした。今年度の活動		
おより				年度はボランティア活動を取り	A 80%以上		も各委員会で例年同様の活動が行われた		
				入れるなどして、委員会の生徒	B 70%以上	D	が、生徒会を中心とした主体的な活動とは		
② 表記のいる内容と呼吸で				と共に多くの生徒が参加できる	C 60%以上		言い難い。また、ボランティア活動につい		
② 表現のよい保険会の				活動を準備したいと考えてい	D 60%未満		ても、委員会との協力体制は構築できなか		
公理事件の学生の主意の表現の表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表									
交換	2		保健体育科	•					
# からで報告を行う									
全域会						a			
おいてきたい。 1 中学学校 1 中学 1 中学学校 1 中学 1 中		育祭・子園祭を仃り 			,	S			
大学の									
中国					D 30 /0 八阳				
おしていまり (1987年) (19			生徒会		学園祭アンケート結果	<u> </u>			
およったときまない。 A			1/4						
日本学生の子養養性									
こと、地のの電性があっていた。									
別開版を含集するとおいきをし、						S			
② 売業上が移営総件を実施する ○事補・事後(フレセン合む)字 習の利容を始める 1 中学中央 日学で発生に経展となった。 1 ロッサライルス返除数人の影響 報告を発生に経展となった。 8 労労を打し 日の多か上 日の30年上 日の30年上 日の30年上 日の30年上 日の30年上 日の30年上 日の30年上 日の30年上 日の30年上 日の30年上 日の30年上 日の30年上 日の30年としたりますがより、 日の30年としたりますがより、 日の30年としたりますがより、 日常によりような話を表が構し、 とってはこのような話を表が構し、 とってはこのような話を表が構し、 とってはこのような話を表が構し、 日の30年の対象とで作った。上午 上さってはこのような話を表が構し、 とってはこのような話を表が構し、 とってはこのような話を表が構し、 とってはこのような話を表が構し、 とってはこのような話を表が構し、 とってはこのような話を表が構し、 とってはこのような話を表が構し、 とってはこのような話を表が表が構し、 とってはこのような話を表が表が構し、 とのも指揮を変化が構り、または一様でよっとはであるのの制能 とってはこのような話を表が、全体がに見よば背格 を表される。 コロッ部を制度が対象に とってはこのような話を表が、会体がに見よば背格 とってはこのような話を表が、会体がに見よば背格 とってはこのような話を表が、会体がに見よば背格 とってはこのような話を表が、会体がに見まば背格 を表でするか。 40年年のようながある。 日間を加えたが、そくので持ちた。そくので持ちた。 ものが以上 日の30人が男子での家、女子で 後に得かましている生態がほとんでも る。特が取出としている生態がほとんでも る。内では、子でで認ら、今年 ではかままでする。 日の30人が男子での家、女子で認ら、今年 ではかままできる。ま年度も いたとしているかが多解から を表がしていたからかより、 では、日間とはか、次と を使用である。 会体ののよりによっていたがラファ トラルでを日間を表する。 と思えれるが、名にが現在のか解析で は、上を表では、日本のから発酵が 会のでは、好きない、次と と思えれるが、名にが現在のか解析で は、上を表では、中心といかが多の を表がした。 と思えれるが、名にが現在のかが異なっていたがきない。 またを必要し、このようには、自己というなど と思えれるが、名にが現在のかが見である の、今年をおようのが解析がり、(ロ ととなどでもか)。 またを記さ、このとのとのがは、「する」 は、200mを利用して生薬はよりで、 を使用のままない、次と は、上を表でする。 と思えれるが、名にが現在のかが異なる は、たまでするから、手を施力 このといたがきない。 またを表で、一体を表がまでは、好きな と思えれるが、名にが現在のかが発きな と思えれるが、名にが現在のかが異なる と思えれるが、名にが現在のかが異なる とまえる。 またり、このとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのとのと				る。また、生徒の意見でも2日	D 60%未満		面を知る機会となり、好評を得ることがで		
② 完美した影響所を選訴する (7年前・事後(ソレゼン付け)等				間開催を希望する意見が多くあ			きた。		
□ 中学 (アンゼン合き) 等 対の内容を表現に延期となった。				った。					
図の内容を確める	3	充実した修学旅行を実施する	1年学年会	コロナウイルス感染拡大の影	修学旅行アンケート結果		北海道の修学旅行では集団行動の大切さ		
2 年		○事前・事後(プレゼン含む)学		響で来年度に延期となった。	S 肯定評価 95%以上	Q	とグループ研修では楽しみながら計画を立		
2 年 李 全 1 年 下		習の内容を深める			A 90%以上	8	て小樽・札幌の食・文化・伝統に触れた。		
響で申止となった。代替館行(1 泊2目)を3年次4月に英雄子 定。 第字講座に積極的に参加し、□分 選挙集合。 学校生活アンケートの基果で自 選挙委員会 学校生活アンケートの基果で自 選挙会員会 学校生活アンケートの基果で自 、					B 80%以上		SDG s に関連させ多くの学びを得た。		
第2 日本 1 2 3 3 3 3 3 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5			2 年学年会	コロナウイルス感染拡大の影	C 70%以上		コロナウイルス感染拡大の影響で3年ぶ		
② 遊学演座に程極的に参加し、自分 かったとから生後たちは非常に楽しむことができた。 かったことから生後たちは非常に楽しむことができた。 2年生 78%。3年生 88%と学中で立に とってはこのような講座と演座 は初かてだったことから構造と 2 70%以上 70%以力 40%以力 40%以为				響で中止となった。代替旅行(1	D 70%未満		りの修学旅行の実施となった。4 泊 5 日と		
② 遊学講座						S			
 ・ 遊学講座に積極的に参加し、自分の可能性にテャレンデオる 一選書書書会会				定。					
#							·		
78%、3 年生83%と学年ごとに よって達いがあった。1 年年に	(4)								
よって違いがあった。1年年に とってはこのような議事会議型 C 70%以上 C 70%以上 S 10%以上 C 70%以上 D 700%以上 C 70%以上 D 700%以上 C 700%的成形的 C 70%的成形的 C 70%以上 C 70%以上 C 70%以上 C 700%以上 C 700%的成形的 C 70%的成形的 C 70%的		の可能性にチャレンジする 	連営委員会						
とってはこのような薄塵交達型 は初めてだったことから報極的 に取り飛起すととかできたとも考えられる。 コロナ癌染腫医係で薄悪が体講 になり生徒の欠席者数が傾すよ り増加した1年であった。									
は初めてだったことから積極的に取り組むことができたとも考えられる。 コロナ感染症関係で講座が休講になか生態の大解者数が伸出まり増加した1年であった。 生徒の感想文を読むと、多くの生徒が新しいことに挑戦したことで何らか刺繍を受けており、満足度は高いように感じる。 生徒の感想文を読むと、多くの生徒が新しいことに挑戦したことで何らか刺繍を受けており、満足度は高いように感じる。 加入率が男子で 68%、女子で 50%なので女子生徒に対する加入率 50%なので女子生徒に対する加入率解加の方法を考えていきたい。 8 75%以上 A 66%以上 C 50%以上 D 50%未満									
でいっていっていっている。						G			
及られる。 コロナ酸染症関係で講座が休謝になり生徒の欠席者数が例年より増加した1年であった。 ② 部活動加入率の向上 ○文化部の活性化 ○送船届を整備し、退総者を把握する					10%未個	8			
□ コーナ感染症関係で濃度が休講になり生徒の欠需者数が例年より増加した1年であった。 ○ 部活動加入率の向上 ○文化部の活性化 ○退部属を整備し、退部者を把握 する ② 部活動は当 入率増加の方法を考えていきた い。 ③ 部活動担当 日本館加の方法を考えていきた と で 50%なので女子生徒に対する加 人率増加の方法を考えていきた い。 ③ 部活動において、 県総体等 (3 年生) 生かりの成 裁上位をめざす 硬式野球(夏の県予選)、サッカー (選手権県予選)、駅本競走(県予選)、「大変な面はあるが各部協力して対策など人変な面もあったが各部領別方域上である。 米年度もコロナの影響が続く可能性があり、大変な面はあるが各部協力して対策を持く、国力を加入して対策・方針を表し、 で 50%は上 の たた結果である。 米年度もコロナの影響が続く可能性があり、大変な面はあるが各部協力して対策を持く、国力を加入して対策・方針を表し、 で 2 世別が成力して対応することが必要がと考える。 ② 学校がグローバル化を推進する ② で で 50%なり上 の たいたが各部領力して対策を対し、 変な面もあったの金融を持ら点。 ベスト 4 入質(金質) 4 点 ベスト 8 入質 2 点 で換算 2 に表が、各部が研究した結果である。 今年度は、点数には含まれないがフットサルで全国保援するという快挙を成し遂げた。 米年度も引き続き各部協力して頑張のていただきたい。 ③ で で 50%な上 の に関しては神年度と関係にコロナウイルスの影響が続く可能性があり、大変な面はあるが各部協力して頑張のより、大事の成力して頑張っていただきたい。 ※ 80 点以上									
はなり生徒の欠席者数が例年より増加した1年であった。									
3 部活動加入率の向上									
□ 部活動加入率の向上 ○文化部の活性化 ○退部届を整備し、退部者を把握する									
○退部届を整備し、退都者を把握する 入率増加の方法を考えていきたい。 A 65%以上 C 50%以上 C 50%以上 C 50%以上 D 50%未満 C 部に関しては前年度より加入数が 40 名増 えた。退部届に関しては、担任と部(同好会)の顧問が協力して対応することが必要 だと考える。 ⑥ 部活動において、県総体等(3 年生が出場する最後の大会)での成績上位をめざすで、大た結果である。来年度もコーナの影響が続く可能性があり、大変な面はあるが各部協力して対影響が続く可能性があり、大変な面はあるが各部協力して頑張っていただきたい。 学校対抗戦において、優勝 (県代表) 10 点、準優勝 6 点 ベスト 4 入賞 (金賞) 4 点 ベスト 8 入賞 2 点 で換算	(5)	部活動加入率の向上	部活動担当		部活動加入率				
い。		○文化部の活性化		50%なので女子生徒に対する加	S 75%以上		で 59%と前年度と大きな差はない。文化		
(で) 部活動において、県総体等 (3 年 生が出場する最後の大会)での成績上位をめざす 変な面もあったが各部頑張って くれた結果である。来年度もコロナの影響が続く可能性があり、大変な面はあるが各部協力 して対応するといがと思われるが、各部が頑張った結果である。来年度も知り、大変な面はあるが各部協力 して対応するといがフットサルで全国優勝するという快挙を成し遂地区予選)、吹奏楽(全国大会県予選) して頑張っていただきたい。		○退部届を整備し、退部者を把握		入率増加の方法を考えていきた	A 65%以上	a	部に関しては前年度より加入数が40名増		
 節活動において、県総体等(3年生が出場する最後の大会)での成績上位をめざす 要な面もあったが各部頑張ってくれた結果である。来年度もコロナの影響が続く可能性があり、大変な面はあるが各部協力して頑張っていただきたい。 ② 学校のグローバル化を推進する ② 学校のグローバル化を推進する 国際交流推進委員会 ② 学校のグローバル化を推進する ② 学校のグローバル化を推進する ② 学校のグローバル化を推進する ② 学校のグローバル化を推進する 国際交流推進委員会 ② で変換を行った。 Zoomでの交流は、大雪の様子などを映し出すと、とても興味関心 ② (3 年		する		٧٠ _°	B 60%以上	C	えた。退部届に関しては、担任と部(同好		
 ⑥ 部活動において、県総体等(3年生が出場する最後の大会)での成績上位をめざす 要求面もあったが各部頑張って くれた結果である。来年度もコロナの影響が続く可能性があり、大変な面はあるが各部協力して頑張っていただきたい。					C 50%以上		会)の顧問が協力して対応することが必要		
生が出場する最後の大会)での成 譲上位をめざす									
瀬上位をめざす 硬式野球(夏の県予選)、サッカー (選手権県予選)、駅伝競走(県予選)、駅伝競走(県予選)、バトントワリング(全国大会 地区予選)、吹奏楽(全国大会県予選)、吹奏楽(全国大会県予選) 本 70点以上 B 60点以上 C 55点以上 D 55点未満 本 70点以上 B 60点以上 C 55点以上 D 55点未満 本 70点以上 D 55点未満 Zoom を利用して生徒同士の交流を2 回、ニューイヤーカードの交換を行った。 Zoomでの交流は、大雪の様子やe スポーツの活動の様子などを映し出すと、とても興味関心 本 20m での交流を始め 施で友達になり交流を始め Zoom を利用して生を同士の交流 (年 3 回〜) 質疑応答 A 生徒同士のメールのやり取りについて話したり、日本食で好きななののことを分かり合えるように会話をした。来年度は、フラ イ 2 思われるが、各部が頑張った結果である。今年度は、点数には含まれないがフットサルで全国優勝するという快挙を成し遂げた。来年度も引き続き各部協力して頑張っていただきたい。 プロ・アンドで生国優勝するという快挙を成し遂げた。来年度は、アラートサルで全国優勝するという快挙を成し遂げた。来年度は、原本には含まれないがフットサルで全国優勝するという快挙を成し遂げた。来年度は、原本には含まれないがフットサルで全国優勝するという快挙を成し遂げた。来年度は、原本には含まれないがフットサルで全国優勝するという快挙を成し遂げた。来年度は、アートルのを対象がは、来年度は、アートルのを発表されないがフットサルで全国優勝するという快挙を成し遂げた。来年度は、アートルのを発表されないがフットサルでを主意を表示協力して頑張って結果である。今年度は、点数には含まれないがフットサルで全国優勝するという快挙を成し遂げた。来年度は、原本に対象がは、本本に対象がは、本本に対象がは、本本に対象がは、大雪の様子など、表面に対象が、各部が頑張った結果である。今年度は、点数には含まれないがフットサルで全国優勝するという快挙を成し遂げた。来年度は、方式の表面に対象がは、本本に対象が、各部が頑張った結果である。今年度は、点数には含まれないがフットサルで全国優勝するという快挙を成し遂げた。来年度は、方式の表面に対象がは、本本に対象がは、大型の表面に対象が、	6		部活動担当						
(要式野球(夏の県予選)、サッカー (選手権県予選)、駅伝競走(県予 選)、バトントワリング(全国大会 地区予選)、吹奏楽(全国大会県予 選) ロナの影響が続く可能性があり、大変な面はあるが各部協力して頑張っていただきたい。 ベスト 4 入賞(金賞) 4 点 り、大変な面はあるが各部協力して頑張っていただきたい。 A 70 点以上 日 60 点以上 日 55 点以上 日 55 点未満 A 70 点以上 日 55 点未満 A 70 点以上 日 55 点未満 本で検達のグローバル化を推進する 本で表達しからから、 一般の交換を行った。 「変換を行った。」 「なっていただきたい。 Zoom を利用して生徒同士の交流では、大雪の検予を使った。 「なっていただきたい。 本の交換を行った。 「なっていただきたい。 スカイプで生徒同士の交流 (年3回〜)質疑応答 日 20 年6回〜)スカイブ交を映し出すと、とても興味関心 本と使同一のメカイブ交を映し出すと、とても興味関心 本で友達になり交流を始める。 「なって対したり、お互いのことを分かりの合えるように会話をした。来年度は、フラ									
(選手権県予選)、駅伝競走(県予選)、状トントワリング(全国大会地区予選)、吹奏楽(全国大会県予選)、吹奏楽(全国大会県予選)、吹奏楽(全国大会県予選) り、大変な面はあるが各部協力して頑張っていただきたい。 ベスト8入賞2点 で換算 S 80点以上 A 70点以上 B 60点以上 C 55点以上 D 55点未満 つていただきたい。 ② 学校のグローバル化を推進する 国際交流 推進委員会 流を2回、ニューイヤーカードの交換を行った。 Zoomでの交流は、大雪の様子や e スポーツの活動の様子などを映し出すと、とても興味関心 ※ 3人賞2点 で換算 がた。 本年度も引き続き各部協力して頑張っていただきたい。 A トサルで全国優勝するという快挙を成し遂げた。来年度も引き続き各部協力して頑張っていただきたい。 ※ 3人賞2点 で換算 がた。 来年度も引き続き各部協力して頑張っていただきたい。 S スカイプで生徒同士の交流 (年 3 回〜) 質疑応答 を行った。 Zoomでの交流では、好きなスポーツについて話したり、日本食で好きなものを聞いたりし、お互いのことを分かり 合えるように会話をした。来年度は、フラ									
選)、バトントワリング(全国大会 地区予選)、吹奏楽(全国大会県予 選) して頑張っていただきたい。 S 80 点以上 A 70 点以上 B 60 点以上 C 55 点以上 D 55 点未満 がた。来年度も引き続き各部協力して頑張っていただきたい。 ② 学校のグローバル化を推進する 国際交流 推進委員会 Zoom を利用して生徒同士の交流 流を 2 回、ニューイヤーカード の交換を行った。 Zoom での交流は、大雪の様子 や e スポーツの活動の様子など を映し出すと、とても興味関心 シジス校との交流 (年 3 回〜) 質疑応答 A 生徒同士のメールのやり取 り (年 6 回〜) スカイプ交 流で友達になり交流を始め Zoom での交流では、好きなス ポーツについて話したり、日本食で好きな ものを聞いたりし、お互いのことを分かり 流で友達になり交流を始め									
地区予選)、吹奏楽 (全国大会県予選) A 70 点以上 っていただきたい。 B 60 点以上 C 55 点以上 C 55 点以上 D 55 点未満 Zoom を利用して生徒同士の交流 かジス校との交流 指進委員会 流を 2 回、ニューイヤーカードの交換を行った。 S スカイプで生徒同士の交流(年 3 回~)質疑応答を行った。 マ行った。Zoom での交流では、好きなスストッツの活動の様子などを明し出すと、とても興味関心 A 生徒同士のメールのやり取を使い出すと、とても興味関心 か (年 6 回~) スカイプ交流を始めるなん。 本 6 元 るように会話をした。来年度は、フラ						A			
選) B 60 点以上 C 55 点以上 D 55 点未満 Zoom を利用して生徒同士の交 流を 2 回、ニューイヤーカード の交換を行った。 Zoom での交流は、大雪の様子 や e スポーツの活動の様子など を映し出すと、とても興味関心 ンジス校との交流 S スカイプで生徒同士の交流 (年 3 回~)質疑応答 A 生徒同士のメールのやり取 り (年 6 回~) スカイプ交 流で友達になり交流を始め Zoom を利用して生徒同士の交流を 2 回、ニューイヤーカードや伝統菓子の交換を行った。Zoom での交流では、好きなス ポーツについて話したり、日本食で好きな ものを聞いたりし、お互いのことを分かり 合えるように会話をした。来年度は、フラ				して頑張っていただきたい。					
で 学校のグローバル化を推進する I 国際交流 推進委員会 流を 2 回、ニューイヤーカード の交換を行った。 Zoom での交流は、大雪の様子 や e スポーツの活動の様子など を映し出すと、とても興味関心 I 区 55 点以上 D 55 点未満 I Zoom を利用して生徒同士の交流を 2 回、ニューイヤーカード を伝統菓子の交換を行った。		_, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,					つ くいだださだい。		
⑦ 学校のグローバル化を推進する 国際交流 推進委員会 Zoom を利用して生徒同士の交流 流を 2 回、ニューイヤーカード の交換を行った。 S スカイプで生徒同士の交流 (年 3 回~) 質疑応答 Zoom を利用して生徒同士の交流を 2 回、ニューイヤーカード の交換を行った。 S スカイプで生徒同士の交流 (年 3 回~) 質疑応答 Zoom での交流では、好きなス ポーツについて話したり、日本食で好きな ものを聞いたりし、お互いのことを分かり 変換し出すと、とても興味関心 A 生徒同士のメールのやり取 り (年 6 回~) スカイプ交 流で友達になり交流を始め 流で友達になり交流を始め A プーツについて話したり、お互いのことを分かり 合えるように会話をした。来年度は、フラ) 							
② 学校のグローバル化を推進する 国際交流 推進委員会 Zoom を利用して生徒同士の交 流を 2 回、ニューイヤーカード の交換を行った。 シジス校との交流 S スカイプで生徒同士の交流 (年 3 回~)質疑応答 Zoom を利用して生徒同士の交流を 2 回、ニューイヤーカードや伝統菓子の交換を行った。 を行った。 Zoom での交流では、好きなス ポーツについて話したり、日本食で好きなものを聞いたりし、お互いのことを分かりを映し出すと、とても興味関心 本 生徒同士のメールのやり取りである。 で方達になり交流を始め ものを聞いたりし、お互いのことを分かりを表した。来年度は、フラ									
推進委員会 流を 2 回、 $=$ $=$ $=$ $=$ $=$ $=$ $=$ $=$ $=$ $=$	(7)	学校のグローバル化を推准する	国際交流	Zoom を利用して生徒同十のな			Zoom を利用して生徒同十の交流を 2		
の交換を行った。 (年3回~)質疑応答 を行った。Zoomでの交流では、好きなス Zoomでの交流は、大雪の様子やexポーツの活動の様子などを映し出すと、とても興味関心 り(年6回~)スカイプ交流を始める ものを聞いたりし、お互いのことを分かり合えるように会話をした。来年度は、フラ		· Comment of the state of the s							
Zoom での交流は、大雪の様子 A 生徒同士のメールのやり取 り (年6回~) スカイプ交 を映し出すと、とても興味関心 ポーツについて話したり、日本食で好きなものを聞いたりし、お互いのことを分かり合えるように会話をした。来年度は、フラ			~		· ·				
や e スポーツの活動の様子など り (年 6 回~) スカイプ交 ものを聞いたりし、お互いのことを分かり を映し出すと、とても興味関心 流で友達になり交流を始め 合えるように会話をした。来年度は、フラ				3 10 1 = 11					
を映し出すと、とても興味関心 流で友達になり交流を始め 合えるように会話をした。来年度は、フラ				• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	·				
を持ってもらえた。現状はまだ る A ンスのお菓子作りに挑戦するなど活動の幅				を映し出すと、とても興味関心	流で友達になり交流を始め		合えるように会話をした。来年度は、フラ		
				を持ってもらえた。現状はまだ	る	A	ンスのお菓子作りに挑戦するなど活動の幅		
まだ渡航することは難しいため B 異文化の研究(フランスの を広げたいと考えている。また、生徒のフ				まだ渡航することは難しいため	B 異文化の研究(フランスの		を広げたいと考えている。また、生徒のフ		
Zoom での交流が主となるが、 歴史・文化・言語など) ランス訪問を 10 月に予定している。				Zoom での交流が主となるが、	歴史・文化・言語など)		ランス訪問を10月に予定している。		
生徒への参加を強く呼びかけ、 C クリスマスカードや年賀状									
本校からの参加生徒を増やすこを送る									
とが望まれる。				とが望まれる。	D 教員間メール交換(~3回)				

重点目標 4. 進路指導の充実、		特に進学実	績の向上			
	重点目標に対する具体的取組	主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析 (成果と課題)
1	国公立・難関私立大学合格実績 ○特進補習や勉強合宿等の充実 ○一般進学文系向けの業後補習 ○進路指導室での進学意識向上化 ○生徒の進路や特性にあった進路先 と入試方法を、コロナ禍などの状 況に応じた的確な進路指導を行 う。 ○志望校(国公立・難関私大)検討 会議の開催	進路指導部	国公立大学現役合格者 10 名を 達成。一般入試合格には金沢大学 2 名を含んでいる。昨年度の反省 を生かし、総合型選抜も積極的に 受験させたことが 1 つの要因であ る。また、夏期休暇中には選抜者 を京都の河合塾での夏期講習に参 加させたことで、受験生としての 意識も高まった。この成果が本年 度だけに終わらないよう、今後も 実績を積み上げていかねばならな いことが一番の課題である。	A 15名以上 B 10名以上 C 5名以上 D 5名未満	В	国公立大学については公立大学に4名が合格した。私立大学については一般入試で法政大学や立命館大学に合格。総合型選抜や推薦型選抜で中央大学2名、立命館大学2名、関西学院大学2名、指定校推薦で同志社大に合格。本年度は国公立大学の総合選抜型ではいい結果が出せなかったが、私立大学においては総合型選抜や一般入試で合格者が出た。来年度の新3年は1・2年次にキャリアアップも実施しているので、国公立大学の入試においても巻き返しをはかりたい。
2	金城大学及び金城大学短期大学部への進学	高大連携 教育推進 委員会 → 令和4年 度からは <u>進</u> 路指導部	進学者数は24名で、全体の5.4% <合格者の内訳> ・社会福祉学部:11名 ※子ども福祉学科6名 ・医療健康学部:7名 ・看護学部:7名 ※社会福祉学科1名を除く24名 が進学 社会福祉学科を総合型選抜で受験した3名全員が不合格となったので、その原因や今後の指導について考えたい。 進学者数は52名で、全体の		S	進学者数は36名で、全体の9.6% ※合格者全員が進学 <合格者の内訳> ・人間社会科学部 20名 ※子ども教育保育学科16名 ・医療健康学部 7名 *理学療法学科 6名 ・看護学部 9名 子ども教育保育学科受験者の増加が、大学進学者増加の要因となった。来年度は総合政策学部が新設予定のため、大学と高校で連携を取りながら、受験者増加を目指したい。 進学者は30名で、全体の8.0%
			#字有数は 52名で、全体の 12.3% < 合格者の内訳 > ・ビジネス実務:33名 ・幼児教育:12名 ・美 術:7名 ※合格者全員が進学 3年学年会として金城以外の短大や専門学校を志望する生徒に個人面談などを通し進路指導を行った。また、金城コース在籍者以外の生徒に対し、オープンキャンパスへの積極的な参加を促した。	S 16%以上 A 12%以上 B 10%以上 C 5%以上 D 5%未満	C	連字者は30名で、全体の8.0% ※合格者全員が進学 <合格者の内訳> ・ビジネス実務 20名 ・幼児教育 7名 ・美 術 3名 受験者減少の主な要因は以下の2点だと考える。 1. 幼児教育学科から大学の子ども教育保育学科受験にシフトしていること。 2. ビジネス実務学科の受験者が減少している。 2.の対策として、ビジネス実務と競合するような専門学校志望者に対し、金城短大の特長を的確に伝えていく。また、安易に就職を希望する生徒に対しても進学の意義などを積極的に伝えていく。
3	就職指導の充実 ○景気に陰りが出てきたので、各生 徒と企業に対して昨年以上にきめ 細かく対応して、就職指導を行っ ていく必要がある。また、公務員 志望者には、民間企業対象者とは 別に説明会を実施する。	進路指導部	本年度も引き続きコロナ禍の不 安を抱えながらの指導ではあった が、学校紹介の生徒に関してはほ ぼ内定をいただくことができた。 学校には多くの求人票がくるが、 生徒の希望職種と離れている場合 も多く、生徒自身が探してくるケ ースも増えている。	S 100% A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上	A	学校紹介の生徒に関してはほぼ内定をいただくことができた。 求人票は前年度同様、多くの企業からきているが、やはり希望する職種にこだわる生徒が増えてきており、生徒自身が探してくるケースや、まずはパートとして採用してもらうケースも増えている。

重	重点目標 5. IR (インスティテューショナル・リサーチ)及び自己点検・評価						
	重点目標に対する具体的取組	主担当	昨年度の状況	評価の観点・達成度判断基準	評価	分析(成果と課題)	
	各コースにおける教育活動の充実 ○カリキュラムマネジメントの充実	教務部	カリキュラムマネジメンを作成し、教科に指針として提示した。保護者アンケートや卒業アンケートでの満足度はいずれも高い。校内外研修への参加や模擬試験における学力向上など、課題は残る。	ルーブリック 20 点満点評価 (1) 教員の指導力及び資質の向上(重点目標2の①) (2) 学習の基礎基本の徹底 (重点目標2の②) (3) 模擬試験における目標の明確化(重点目標2の④) (4) 本校の満足度(重点目標5の②) (5) 成績不振者数 S 18 点以上 A 15 点以上 B 12 点以上 C 10 点以上 D 10 点未満	A	来年度より、学校ルーブリックを作成し、評価項目を明確にし、生徒に提示しながら啓発を行う仕組みを導入したい。これにより生徒個々の資質向上や現在行われている観点別評価の明確化が期待される。	
2	本校の満足度調査を行う ○保護者アンケート	教務部	全学年の保護者に対してアンケートを実施した。実施時期は1学期保護者会である。1年生の回答率は49.1%、2年生は27.4%、3年生は71.9%であった。概ね肯定的評価が多かった。肯定的評価の平均は89.2%であった。	各アンケートの結果 S 肯定評価 95%以上 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	S	1学期保護者会期間に保護者アンケートを実施し、全体で66.9%の回答を得た。評価は全ての項目で肯定的評価が極めて高く、全体評価は昨年度に比べ0.1ポイント増の95.2%であった。	
	○卒業生アンケート		今年度も、コロナ禍で行事の中止や修学旅行が中止になったが、3年学年会の努力等もあり、生徒の満足度は高く、総合評価の肯定的評価は92.6%となった。		В	卒業アンケートを実施した。生徒の満足度(総合)は87%であった。今年度もコロナ禍により行事の縮小などがあったものの、行事に関する満足度は87.9%である。また、教員の授業のわかりやすさについては88.7%、教員の生徒に対する丁寧さについては95.7%、授業によって必要な学力がついたと回答する生徒は87%と、日頃からの教員の指導に対する評価を受けている。	

以上